

令和4年度 県立水戸聖学校(特別支援学校)自己評価表

【別紙様式2】

※評価基準 A:十分達成できている(5点) B:達成できている(4点) C:概ね達成できている(3点) D:不十分である(2点) E:できていない(1点)

目指す学校像		〇安全・安心であたかな学校 〇一人一人のよさや可能性を大切にする学校 〇互いに学び合い、高め合う学校 〇家庭・地域社会と連携し、信頼される学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
＜成果＞ ・コロナ禍での学習にも慣れ、様々な活動において制限のある中、リモートによる行事(高等部・オンラインフェスや全校集会など)や分散登校中のオンラインによる授業等、学習保障・活動保障に努めることができた。 ・学習指導部、研究・研修部と連携し、自立活動における目標達成シートの活用や道徳全体計画の作成、年間指導計画の見直し等、実効性のある教育計画も基づき、個別最適な学びに向けた取組を行うことができた。 ・高等部卒業生は茨城キリスト教大卒合格、製造業に就職するなど、全員希望通りの進路決定ができた。		1 安全・安心な学校、寄宿舎	①幼児児童生徒や保護者等との基本的信頼関係の構築 ②日頃からの防災教育の充実による防災意識の向上 ③適切なSNSの活用やいじめ防止の取組の推進(人権意識の高揚) ④安全管理・安全教育の推進(平時の危機管理、緊急時対応訓練等) ⑤徹底した感染症予防等による安全な教育活動の推進(オンラインによる活動の工夫)		A
		2 授業力(構想と実践)・専門性の向上	⑥指導の個別化と学習の個性化を図った指導の充実と「協働的な学び」の推進 ⑦主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と3観点による学習評価の充実 ⑧時代の変化に対応した学習スタイルの充実(ICTの活用、プログラミング的思考等) ⑨目標設定シートにより組織を明確にした自立活動の指導の充実(目標、内容の妥当性) ⑩多様な認知特性や学び方に応じた指導の工夫(UDLの視点)		B
		3 豊かな心や健やかな体を育む教育の推進	⑪間接的交流(オンライン等)を含めた効果的な交流及び共同学習の推進 ⑫体力向上にむけた広にわたる取組の工夫 ⑬養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進 ⑭スポーツ・文化・芸術的活動(部活動含む)の充実 ⑮別業の整備と発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の推進		A
		4 自立と社会参加にむけた教育の推進	⑯発達段階に応じた基本的生活習慣の確立(あいさつ、報告、生活リズム、時間管理等) ⑰各部の系統性をふまえたキャリア教育の推進(キャリアパスポートの活用)の工夫 ⑱自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシニアシップ教育の充実 ⑳高等部学科改編に係わる諸検討・整備の推進 ㉑指導員間の連携による自治会活動の充実と主体性、協働性を促す生活指導の工夫<寄宿舎>		B
＜課題＞ ・年間指導計画の見直しと道徳全体計画別業の作成、高等部学科改編を意図した教育課程編成。 ・新学習指導要領の完全実施に伴う、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と3観点による学習評価の充実。 ・「段取り力」を意識した働き方改革のさらなる推進。		5 センターの機能の充実、地域・関係機関との連携	㉒「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制の強化と理解啓発 ㉓各種相談支援(早期教育含む)等におけるアセスメントに基づく指導助言の充実 ㉔個別の指導計画の継続的活用と在籍校との連携を図った通達指導教室の充実 ㉕地域や企業等、地域資源を活用した学習活動の積極的な取組(見学、実習等) ㉖HPの充実とPTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度への改善策(◇)
校務	企画係	1 安全な教育活動を推進する。 ・本校版「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を改訂し、感染予防と学習保障を両立する。	④⑤	A	○本校版「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を改訂し、健康安全マニュアル集に加えて全職員に配布することができた。●新型コロナウイルス感染症対策については、今後も常に最新の情報を取り入れながら、見直し・改善、周知を継続していく。
		2 個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用を推進する。 ・新学習指導要領の完全実施にともなう、高等部の個別の指導計画の様式の見直しと3観点による学習評価を意図した年間指導計画の見直しを行う。	⑥⑦	A	○新学習指導要領に合わせて、高等部1年生の通知表の様式を見直し、●⑥統合型教科書支援システムの導入に向けて準備を進めているが、システムが高校向けで、幼・小・中学校に対応しづらい部分がある。今後も根と相談しながら準備を進めていく。
		3 教育的ニーズに応じた教育課程を編成する。 ・学科改編検討委員会、教育課程編成委員会を定期的に開催し、各部における検討の結果を委員会に反映させる。	⑧⑨	B	○教育課程編成委員会を計画的に進めて、次年度の教育課程を順期までに提出することができた。○学習指導部と連携して年間指導計画の新様式と道徳全体計画別業の作成作業を進めた。●⑨高等部の学科改編については財務課への予算請求も含めた書類を提出し、現在、特別支援教育課と細かな点を詰めている状況。令和6年度の改編に向けて継続して準備を進める。
		4 職員研修の充実及び働き方改革を推進する。 ・キャリアパスポートの活用の工夫及び、道徳全体計画別業を学習指導部と連携して進める。	⑩⑪	A	●キャリアパスポートについては、各学年において活用が定着してきて、長い期間積み上げていくものなので、有効性の検証をいつ、どうやって行っていくかが課題である。
	教科書	5 研修や授業研究の円滑な計画・運営に努める。 ・対象となる教員と綿密な連携を図り、授業研究や研修を計画的に進める。	⑫⑬	A	○職員会議を使って、情報関係の内規の研修、生徒指導やLGBTQの研修、全国学校研究大会の参加報告、コンプライアンスの研修等を実施した。●学校行事についての反省を係毎や学部毎に行っていたが、学校全体に反省点を周知したり、改善策を検討する流れが無かったため、行事の精選等には繋がりがなかった。◇Googleフォームでの行事の反省の集約を始めたが、次年度は年度当初から始めて見直し改善につなげたい。
		6 本校の実態に応じた公正な教科用図書を選定する。 ・教科担当者や各部の協議を基に、部主事、教務主任と連携し選定を行う。	⑭⑮	B	○関係教員と事前に打合せしながら、計画通りに進めることができた。●1年間の計画をより詳細に企画していく必要がある。○部主事と連携し、計画表を構築していく。●特に新任者とは日頃からコミュニケーションを深めたり、進捗状況を確認したり、よりスムーズな研修を進める。
	授業関係	7 公立校や会社等、各種研修や管理し、正確な記入を促す。 ・管理職や教務主任と連携し、様式の記入方法を見直し確認するとともに、保管期限の過ぎた公立校等を処分する。 ・資料室の物品を適切に管理する。	⑯⑰	B	○各年度の教科書係を中心に、部主事、教務主任と連携して教科用図書の選定を行うことができた。●⑨小学校、中学校においては、重複課目に在籍する生徒の増加に伴い、実数差が拡大・内容が重複しているため、次年度の教科用図書選定にあたっては、より実数に近づける必要があり、デジタル教科書の導入に向けて、情報関係との連携が必要である。
		8 交流活動の推進と充実を図る。 ・交流活動先との事前打合せを活用し、本校の児童生徒に関する理解啓発や合理的配慮の視点について共理解を図る。	⑱⑲	B	●出席簿の様式の調整が必要な箇所が出てきたが、年度内の調整は難しく次年度からの対応となった。年度初めに確認する必要がある。○資料室の物品の整理、スキャンソフトと連携し適切に管理することができた。
	学習指導	9 諸検査の計画的な実施と、学習指導に関する記録や資料を整理する。 ・資料ファイルの作成と管理、年間指導計画や個別の指導計画、キャリアパスポートの円滑な運用を行う。	⑳㉑	B	○直接交流が難しい状況なので、オンライン交流を行った。相手校との打ち合わせ、オンラインの接続練習を行い当日は円滑な交流ができた。 ●オンライン交流の内容がマンネリ化しないように、情報機器の研修を積むことが必要である。
		10 教科会活動の推進を図る。 ・各教科会で、年間指導計画の運用における研修や相互授業参観を行う。	㉒㉓	A	○諸検査の計画的な実施や検査結果の活用については、教育支援セグメントと連携のもと、進めることができた。●⑨年度当初に開始がされているが、今後、実習・実習時間、校内掲示板を利用したの実施のお願いや検査結果の活用についての情報提供をしていくべきであると感じる。○年間指導計画の新書式の書き換えや、作成時限の見直しをとり、本校における年間指導計画の在り方について整理することができた。●⑨重複課年の年計においては、今後作成する際の教員の進捗負担にならないよう、過去の年計を基にした標準・内容を明確化し整理し、必要に応じて各教科会に共有し、学習指導についての情報交換や教科会発生の行事を行うことができた。●⑨教科会活動は各教科によって実施状況に差があるため、どの教科においても、相互授業参観等の学習指導についての研修の推進を、学習指導部から呼びかけていく必要がある。○各様式や作品・コンクールへの出品への情報提供を、各教科担当者を通して、行うことができた。
分掌	図書	11 幼児児童生徒が学習成果を発表する活動を促進する。 ・「県芸術祭」「ナイスハートふれあいフェスティバル」その他、作品展・コンクール等への出品をする。	㉔㉕	A	○児童図書等の購入を計画的に実施した。○幼児児童生徒、教員より希望図書のリクエストを受け、購入していき、図書館より図書室内へ搬入をとおして、推薦図書や幼児児童生徒の作品を紹介した。○中・高図書委員と連携し、図書の紹介等、生徒の読書活動推進への支援を行っていった。○校内読書感想文・感想画コンクールの優秀作品を全国コンクール県予選(高・文のみ)・水戸市コンクール(小・中・文面共に)に出品することができた。○昨年年度からの読書感想文コンクール県予選(高)への出品に伴い、高等部読書感想文コンクールの案内を行った。高等部美術科と連携し、出品を検討するが、○学部によっては授業時数確保のため、読書書の時間確保が難しい状況もあるが、授業内や休み時間等を活用し、全学部の利用が見られる。●チャレンジ読書については、小学部の参加が主となっている。
		12 魅力ある図書館づくり図書館教育・読書指導の充実を図る。 ・広報活動を通して(図書館だより、推薦図書紹介)校内の読書活動の推進を図る。	㉖㉗	A	○情報関係内規については、職員会議等で研修を実施。また、掲示版等を利用した周知を図った。使用プリンタを見直し、インク瓶の消耗品の在庫管理を徹底し、無駄を削減。環境を物理的に改善していた使用しないPCや機器、ラック等を、適正な方法で処分することができた。○ログ作成に、初めての職員にも関わってもらうことができた。学校HPの一部もリニューアルできた。●表面的な問題は起きていないが、各自が著作権等をつらり理解しているか等が難しい。HPやブログの作成スキル継承、ブログ発信の学部間の偏り。
		13 インターネットによる外部への情報発信に努める。 ・情報セキュリティ関係内規の職員周知、常時掛けによる順守を図る。 ・消耗品の無駄のない使用の呼びかけをする。	㉘㉙	B	○タブラント、電子黒板の基礎的な使用方法や電子黒板の諸機能についての研修を学部単位で実施し、スキルアップを図ることができた。また、有用なアプリについての周知や研修を行った。ICTを活用した授業実施を行うことで、具体的な使用方法を把握してもらうことができた。○各式典や文化祭等の学校行事の際に、Googlemeetやzoomをより、オンラインでの配信を行うことができた。また、係内でオンライン配信関係の機器類に關しての研修を行い、技術的な支援を継続的に行うことができるようになった。●⑨外部業者と連携し、機器類の管理を行った。外部業者との連携や、業者の選定に關して課題があり、システム構築が完成していない。そのため、業者と学校の対応する内容を整理したり、業者の情報を収集し、明確なシステムを構築する必要がある。
		14 ICTの活用を推進する。 ・授業におけるタブレット、電子黒板の活用についての導入と研修を実施する。 ・学校行事等のオンライン映像配信、オンライン研修の技術的支援を行う。	㉚㉛	A	○長期休業中に、各部の研修の情報交換会を行った。これによって、研究の進捗状況や、研究を進める上での悩みや疑問等を共有することができた。○研修の実施においては、感染症予防のために、オンラインで実施することが多かった。その際には、情報関係係との連携を密にするなどによって、スムーズに実施することができた。●研修参加の広報活動が十分に伝わることができた。他の行事や会議等と日程が重なってしまう。参加希望者が参加できなくなってしまうことがあった。○教務主任と連携し、諸研修会の日程を年間行事予定に明記することや、職員会議でこまめに周知することで改善していく。
	情報機器	15 コンピュータ等情報機器の適切な管理に努める。 ・外部の機関と協力しながら情報機器の適切な配分と適量のない管理、及び活用しやすいつシステムを構築する。	㉜㉝	B	○各学部ごとに自立活動に関する基本的・実践的な内容をそれぞれがまとめで発表する形で研修を行うことができた。また、新任者には、新任研修を行い、県教育の専門性の基本的な内容を研修することができた。●⑨学部ごとに研修を本校教員に任せ、各教員が参加していったが、学部によって人数の偏りがあったため、次年度からは発表内容やグループについて配慮をする。
		16 聴覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・全職員を対象に自立活動に関する基本的・実践的な内容の研修を実施し、本校における聴覚障害教育に関する専門性の継承を図る。	㉞㉟	B	○職員会議や各種行事で適切な情報提供を行うことができた。新任者を対象とした手話の勉強会や、夏と冬の手話研修等として、手話技術の向上を図ることができた。また、UDUークを使用したり研修を行い、アポイントともに使用を体験してもらい、誤差が少なくなるような話し方を考えることができた。●⑨情報関係等と各様の話し方や、原稿を前もってもらうなどすることによって、研修がスムーズに進められた。●研修が完了した後に、明確なシステムを構築する必要がある。
	研究・研修	17 学校研究を推進する。 ・学校研究テーマの共通理解を促し、各部の研究に系統性をもたせる。 ・校内研修に招致する外部講師との連絡調整を行い、効果的な研修を行う。 ・校外の諸研修会、講習会などの広報活動(回覧・掲示・職員会議での周知、諸研修会・研修会などの参加申込、オンライン研修の会場設置等)を行う。	㊱㊲㊳	B	○職員会議や各種行事で適切な情報提供を行うことができた。新任者を対象とした手話の勉強会や、夏と冬の手話研修等として、手話技術の向上を図ることができた。また、UDUークを使用したり研修を行い、アポイントともに使用を体験してもらい、誤差が少なくなるような話し方を考えることができた。●⑨情報関係等と各様の話し方や、原稿を前もってもらうなどすることによって、研修がスムーズに進められた。●研修が完了した後に、明確なシステムを構築する必要がある。
		18 聴覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・全職員を対象に自立活動に関する基本的・実践的な内容の研修を実施し、本校における聴覚障害教育に関する専門性の継承を図る。	㊴㊵	B	○職員会議や各種行事で適切な情報提供を行うことができた。新任者を対象とした手話の勉強会や、夏と冬の手話研修等として、手話技術の向上を図ることができた。また、UDUークを使用したり研修を行い、アポイントともに使用を体験してもらい、誤差が少なくなるような話し方を考えることができた。●⑨情報関係等と各様の話し方や、原稿を前もってもらうなどすることによって、研修がスムーズに進められた。●研修が完了した後に、明確なシステムを構築する必要がある。
	情報機器	19 聴覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・全職員を対象に自立活動に関する基本的・実践的な内容の研修を実施し、本校における聴覚障害教育に関する専門性の継承を図る。	㊶㊷	B	○職員会議や各種行事で適切な情報提供を行うことができた。新任者を対象とした手話の勉強会や、夏と冬の手話研修等として、手話技術の向上を図ることができた。また、UDUークを使用したり研修を行い、アポイントともに使用を体験してもらい、誤差が少なくなるような話し方を考えることができた。●⑨情報関係等と各様の話し方や、原稿を前もってもらうなどすることによって、研修がスムーズに進められた。●研修が完了した後に、明確なシステムを構築する必要がある。
		20 聴覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・全職員を対象に自立活動に関する基本的・実践的な内容の研修を実施し、本校における聴覚障害教育に関する専門性の継承を図る。	㊸㊹	B	○職員会議や各種行事で適切な情報提供を行うことができた。新任者を対象とした手話の勉強会や、夏と冬の手話研修等として、手話技術の向上を図ることができた。また、UDUークを使用したり研修を行い、アポイントともに使用を体験してもらい、誤差が少なくなるような話し方を考えることができた。●⑨情報関係等と各様の話し方や、原稿を前もってもらうなどすることによって、研修がスムーズに進められた。●研修が完了した後に、明確なシステムを構築する必要がある。

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度への改善策(◇)
校 務 分 掌	生徒指導		・幼児児童生徒の状況について、学部内及び学校全体での情報共有に努める。 ・地域や関係機関との情報交換の実施や連携に努める。	③	C	○マナーアップ運動では、各都で年間の活動計画を立て、児童生徒の実態に合った方法で実施することができた。○交通安全教室を開催し、水戸市の市民協働部 生活安全課と連携し歩行者・自転車の安全な歩行や車道・歩道の安全な通行の教育を実施することができた。○立明指導を実施し記録をとることで、学校付近の危険箇所を把握することができた。 ●高等部では、薬物乱用防止の講座を行ったり、性的マイノリティ理解促進の動画を視聴したりする機会があったが、SNSの活用方法についての講座が未実施である。次年度は長期休業前・長期休業中・長期休業後の3回実施できるように計画を立てること。○スマホ使用のルールを策定し、画面ロックの設置することで保護者への意識は高められた。○SNS上ではトラブルも多発しているため、加害者、被害者にならないための具体的な対策を実施し、意識の向上を目的とした保護者向けの講演も実施する必要性を感じる。○学校生活アンケートを実施し、いじめ防止検討委員会を開くことで幼児児童生徒、保護者の意向について情報を共有することができた。また、日頃の様子やアンケートから分析できる懸念事項や対応策について共有することができた。○相談窓口の設置について、支援センターと連携し、もしもボクスの管理をすることができた。●生徒指導部としての相談窓口の設置はないが、保健室や宿舎の先生に相談をする生徒も多いため、担当教員と情報の共有を密に行いたい。○性的マイノリティの理解促進に関する動画を視聴したことで、多様な性について知ることができ、自己理解を深めたことができた。●令和2年度の引継ぎ事項にあった中高のジェンダーレス制服について教員・生徒、保護者の意向を集約するためにアンケートを実施すること。
		1 生徒指導体制を整え、問題行動等の未然防止に努める。	・日常生活全般及び長期休業前など、SNSなどのルール、マナー等、適宜指導を行う。	③④	C	
		2 基本的生活習慣の定着と、公共マナーの向上を図る。	・学校生活アンケートの実施、相談窓口の設置など、いじめの早期発見に努める。	①③	B	
		3 安全な生活を送るための指導及び支援に努める。	・幼児児童生徒と積極的なコミュニケーションを行い、信頼関係の構築を図る。 ・地域清掃等の奉仕活動やマナーアップ週間を設定し、公共マナーの向上や基本的生活習慣の定着を図るとともに、規範意識を育む。	①④④	A	
		4 日常生活の諸問題を自ら解決する方法を養う。	・交通安全に対する意識を高め、事故の未然防止につながるよう、交通安全教室を実施する。 ・安全で安心な登校に向け、道の始めに立明指導を実施する。 ・水戸駅構内での道徳を行う。	④④	A	
	児童生徒会	5 児童会活動及び生徒会活動の充実に努める。	・十分な活動時間の確保が図れるよう、職員間での共通理解を図る。そのために職員や児童生徒間で活用できる回覧ノートを作成し、連携を図る。 ・主体的な活動を実施できるように、職員間で一貫した指導の方向性をもち、指導・支援を行う。	⑦	A	○各行事などの実施に当たり、検討事項や課題点などをヒアアップしたことで、自分たちで班分けや・行事の実施時期実施内容を計画することができた。また、実施した内容について振り返りを行い、次々の活動の参考資料を作成し、改善策を図ることができた。 ○各学部の部会など、児童生徒会の行事について連絡・検討したことで、教師間の連携を図りながら実施することができた。
		1 進路に関する情報提供の充実に努める。	・適切な進路選択ができるように、事業所からの求人情報、専門学校や大学に関する情報(入試や学校内容)などを提供する。 ・各部において必要な情報を検討し、保護者や幼児児童生徒のニーズに合った進路だよりを発行する。 ・進路指導コーナー、進路指導室の活用を努める。	⑩ ⑩ ⑩⑩	A D B	
		2 職業指導	・生徒の進路希望や職業適性及び事業所の求める人材とのマッチング等も考慮して現場実習を実施する。 ・職業指導者の進路や就職についての理解と雇用推進のために、障害者についての情報提供や積極的な職業開拓に努める。	⑩② ⑩⑤	A B	
		3 計画的な進路指導の充実に努める。	・自己の興味関心と職業適性が重なる部分を自分自身で理解し、将来の進路選択に役立つ段階的な進路指導に努める。 ・高等部卒業後の進路について、進路・就職にどのような力が必要になるのか、生活面・小・中学校低学年の保護者を中心に伝える機会を設ける。	⑩ ⑩	C D	
	保健・食育	4 卒業生支援の充実に努める。	・卒業生の進路先での状況を把握し、必要に応じて支援を行う。	⑤	B	○生徒・保護者が手に取って見ることができるよう、学校に運ばれてくるパンフレットや学校案内等を高等部昇降口のマガジンラックに収納した。 ○進路指導室の個人情報に関する資料を処分、鍵のかかる場所に入れ、誰もが見た時に見たい資料を見ることができ、自由に入出りできる空間になるように室内を整理した。 ●従来の進路だよりは異なる方向性の進路だよりを作成する予定であったが未着手。 ○卒業生の進路先の事業所からの情報や卒業生からの相談などに対応し、卒業生の話を聴き、事業所に問い合わせをし、必要に応じて、就職先での実習や、支援を行なった。 ○卒業後3年間の卒業生についてはホームカミングデーの際に、アンケートの実施と近況報告から進路先での状況把握に努めている。 ●水戸聖霊学校のHPの「卒業生のみなさんへ」とのところに、卒業生支援のメールアドレスを入れて、相談しやすい体制を作る。
		1 幼児児童生徒の実態を的確に把握し、健康増進・健康教育の推進と充実に努める。	・幼児児童生徒の実態把握をし、健康の保持増進に努める。 ・学校保健年間計画に合わせた教材資料を提供し、オンライン等も取り入れながら、健康教育を推進する。 ・保健室の機能及び環境の充実に努め、学校内および地域の医療機関等との連携を推進する上でコーディネーターの役割が発揮できるように努める。 ・日頃から感染症対策を徹底し、スムーズに対応できるように保健・給食マニュアルの整備・活用、緊急時対応訓練等を行い、職員の共通理解を図る。	④⑤ ⑥⑨ ②	A B B	
		2 食生活についての正しい理解と望ましい習慣を養い、学校給食運営の充実に努める。	・食生活や食の選択について、教科担任等と連携した食育活動を行うなど、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。 ・保健・給食マニュアルの整備・活用を行い、アレルギー対応についての職員の共通理解を図ると共に、作業動線を確認しながら調理・検査を適切な手順で行うことで、安全な給食を提供する。	⑥⑨ ⑩ ④⑤	B B C	
		3 学校の安全管理の徹底を図り、生命・身体安全を確保した安全な教育の推進と充実に努める。	・防火管理責任者による安全点検の実施及び事後対応を行う。 ・緊急時に速やかに対応できるように、非常持ち出し袋の準備、ヘルメットや防犯ブザーの整備、トランシーバーや発電機の活用法の検討を行う。 ・緊急時対応マニュアル(防災)に基づき避難訓練を計画立案・実施し、防災意識の向上に努める。	④ ②④ ②④⑥	A B B	
	環境	4 校舎内外の環境整備・美化の推進に努める。	・全職員で定期的に点検し、安全管理を行い、整備・美化に努める。(月1回定期点検、大掃除・除草作業の実施、花壇の整備、危険箇所の把握と改善等)	④	A	○避難訓練の事前のチェックだけでは不十分なので、避難経路や非常口・階段の安全点検も月に1回実施し、定期的点検をするようにした。 ○避難訓練や学校・学部行事(文化祭・持久走大会)などでトランシーバーを有効活用することができた。 ○高等部生徒会として、防災用ヘルメットの配置について考えることができた。 ○学部・宿舎各階で係を中心に連携できる。 ○緊急時対応マニュアルを職員に配付し、防災意識向上に役立った。 ●防災用ヘルメットの配置について(施設として)整備してある場所がある。再考する。現状では、ヘルメットを新たに購入することは難しいので、現在保有しているヘルメットで対応する。→ヘルメットの配置計画を作成し、再配置する。 ●緊急時対応マニュアルの修正、追加、再検討の必要性がある。→今後検討し合わせを行なう。 ●トランシーバーの維持管理について→維持管理マニュアルを作成する。
		1 保護者と教職員が協力し、児童生徒の健全な育成を図る。	・定期総会や各専門委員会活動、及び保護者会への参加をとおして、会員相互の信頼関係を築くとともに、教育環境の充実に努める。 ・関係P連、高P連、特P連などの研修会をとおして、他校の情報などを取り入れ本校のPTA活動に生かす。	⑤⑩⑤	B	
		2 研修及び会員相互の交流を通して、保護者の見解を聴き、幼児児童生徒への理解を深める。	・保護者研修を実施し、障害や進路、幼児児童生徒の心身の発達等について理解を深め、会員相互の交流を図る。	②	A	
		3 PTA会報誌の発行に努める。	・感染症対策を講じた委員会の開催と、会報誌作成作業をとおした保護者間の交流をサポートする。	①⑤	A	
	後援会	4 卒業生支援の充実に努める。	・卒業後3年間の卒業生を対象に「ホームカミングデー(成人を祝う会)」を計画し、実施に努める。 ・部活動や奨励会の募集をはじめ、部活動またはその他の教育活動の支援等を行い、保護者の負担軽減を図る。	⑤④⑤	B	○専門委員会は、感染症対策を行ないながら対面で開催しており、講師を招いた研修会も開催し、保護者同士の親睦を深めることができた。2月の保護者会当日に行うPTA交流会でも部会を超えて親睦を深めたいと考えている。 ○研修Pリモートで総会、縮小理事会、研修会に参加できた。 ●コロナの影響で、定款総会も当面の間はオンラインでの実施で、学部を超えた交流はなかなか難しい。隔年度に数回開催する必要がある。高P連への参加が難しく追従することがなかった。 ○昨年度の要望を受け、成人聴覚障害者の講師を招出し、研修会を実施することができた。感染症対策として、来校した講師に、後日YouTube配信などにつなげる保護者に参加してもらうことができた。●アンケート結果では次年度以降も希望が多い。今回は、講師が人話をしながらの講演だったので問題なかったが、通手話通訳の配信は予算や権利の関係で難しい。情報保護について、検討していく必要がある。 ○委員長と連絡を取りながら、委員会の開催計画・実施ができる。活動日の調整については、さくら組活動アンケート機能を活用したことが有効だった。●委員会の開催日を月曜の午前中に設定した。幼稚園の保護者への配慮から、9時半以降の開催と、他学部(特に小・中・高)の保護者には、送迎の待ち時間ができてしまった。今後とも当初の顔合わせの際に、委員会の開催日時について、了解を得ることが必要である。 ○PTAホームページは、後援会役員会で定期的に、感染症対策を行ないながら短時間で食糧の提供とすることを予定している。旧職員は先生方に参加していただくと、懐かしさあふれる集い心温まる時間になる予定。 ○3年ぶりに行われた関東・全国聖霊学校大会や遠方での大会等の交通の補助などを行ない、保護者の負担軽減を図ることができた。●賛助会が休止に伴い、保護者の負担加重が心配される。
		1 部活動の充実に努める。	・部活動運営委員会等により、各顧問を中心に各部の連携を図りながら学校全体で取り組む連携を努める。 ・効果的、効果的な練習計画を立て、部活動の効果的な運用を図る。 ・コロナ対応など、職員の連携を図り、早急に対応する。	⑤⑩④	B	
	幼 稚	1 感染症予防のために必要な生活習慣や態度の育成を図るとともに、安心して生活できる環境の整備に努める。	・手洗いうがい、安全靴、マスクの必要性がわかり、自分から進んで行うという態度の育成を図る。点検、衛生管理の徹底を自分自身で行う。	④⑤⑥	A	○お断りのあつたりや学級活動等で感染症対策について定期的に扱い、年齢に応じた支援をしたことで幼児年児の理解を深めた。○スクールサポーターの協力のもと、毎日道具や用具類の消毒を徹底できた。○安全と配慮の必要に応じて情報共有と緊急時シミュレーションが実施できた。 ●コロナの影響で、感染症対策は当面の間はオンラインでの実施で、学部を超えた交流はなかなか難しい。隔年度に数回開催する必要がある。高P連への参加が難しく追従することがなかった。 ○昨年度の要望を受け、成人聴覚障害者の講師を招出し、研修会を実施することができた。感染症対策として、来校した講師に、後日YouTube配信などにつなげる保護者に参加してもらうことができた。●アンケート結果では次年度以降も希望が多い。今回は、講師が人話をしながらの講演だったので問題なかったが、通手話通訳の配信は予算や権利の関係で難しい。情報保護について、検討していく必要がある。 ○委員長と連絡を取りながら、委員会の開催計画・実施ができる。活動日の調整については、さくら組活動アンケート機能を活用したことが有効だった。●委員会の開催日を月曜の午前中に設定した。幼稚園の保護者への配慮から、9時半以降の開催と、他学部(特に小・中・高)の保護者には、送迎の待ち時間ができてしまった。今後とも当初の顔合わせの際に、委員会の開催日時について、了解を得ることが必要である。 ○PTAホームページは、後援会役員会で定期的に、感染症対策を行ないながら短時間で食糧の提供とすることを予定している。旧職員は先生方に参加していただくと、懐かしさあふれる集い心温まる時間になる予定。 ○3年ぶりに行われた関東・全国聖霊学校大会や遠方での大会等の交通の補助などを行ない、保護者の負担軽減を図ることができた。●賛助会が休止に伴い、保護者の負担加重が心配される。
		2 保育と自立活動を両立させ、協同性を育て、指導力の向上を図る。	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のうち協同性をテーマに取り上げ、話し合い活動における教師の言葉のかけ方や教材について研修を行う。 ・日常生活で使用する絵カードなどの視覚教材について、年齢や言語発達に応じた適切なものかどうかの検証を進める。	⑥⑦⑨ ⑥⑦⑧	B A	
		3 年齢に応じた基本的生活習慣を身に付け、一人一人が自主的・主体的に活動できるように努める。	・幼児が心と体を安定させ、バランスよく生きていくための基本を習慣づけていくための支援を行う。 ・幼児の心身の発達や親子関係の重要性などについて保護者に対して子育て支援を行う。	①⑩⑦ ①⑩⑦	B	
		4 幼児一人一人の実態に応じた活動の工夫をし、体づくりに取り組む。	・個に応じた体づくりのための、遊びや学級活動、合同活動で習熟度別に活動を設定するなどの工夫をする。 ・栄養教育や養護教諭と連携し、健康や栄養に関する保護者支援を行う。	⑩④ ⑩④	A C	
		5 乳幼児から幼児への発達段階に応じ、連続した支援の充実に努める。	・幼稚園全職員が早期教育の個別指導、グループ活動への参加する。 ・保護者支援、幼児の発達段階などについて具体的な情報交換や研修を実施する。	⑦⑩②	B	

評価項目	具体的目標	具体的方法	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度への改善策(◇)
各教科等	国語 1 児童生徒の実態を踏まえた指導方法の研修を行うとともに、児童生徒の主体的に学ぶ態度や言語能力の育成を図る。	・各部門の情報交換および係内相互授業参観を行い、指導方法の工夫・改善に努める。	⑥⑩	C	○●初任者優先で、各学部の相互授業参観を設定したが、断片的にしか参観することができなかつた。○心算科で、各学部の教科書やワークシートを持ち寄り、授業の動画を見たりしながら、各学部の授業の様子を知ることができようとする。○初任者の授業研究や訪問計画の公開授業の編纂を基に、3観点による学習評価について、話し合うことができた。○学習評価に役立つICTの活用方法などの情報を共有し、アプリの使い方等を相互に学ぶ研修を行うことができた。○各学部が企画した作文コンクールや読書感想文コンクール等に出品することができた。●漢字検定を3回実施したが、どの回もコロナ禍以前と比べると少ない受験者数だった。○検定受験者を増加させるために、授業での漢字の指導方法や、漢字検定の実施回数や方法を検討する。
		・知識・理解の定着を図るためにICTを活用するとともに、3観点による学習評価の充実を図る。	⑦⑧	B	
		・各部門の連携を図りながら、作文コンクール、文集製作、漢字能力検定等の情報を提供することで、積極的に取り組めるような環境を整える。	⑦	B	
	算数 数学 1 児童生徒の実態に合った指導方法を工夫することで、基礎基本の定着を図るとともに、児童生徒の主体性を育てる。	・新学習指導要領の内容、小・中・高の年間指導計画を確認し、各学部門の情報交換を行うことで系統性のある指導を行う。	⑥	B	○他学部の授業を参観することで、現状や授業の進め方、情報機器の使い方等を学ぶことができた。算数・数学検定を予定通り実施することができ、合格者は算数学習の意欲につながったと思われる。●持ち時間の関係で、算数・数学科の授業参観が十分に行えなかった。無理をしても時間をとるべきであった。
		・各学部門の相互授業参観を行い、実態に合った指導方法の工夫について協議することで、授業力の向上を図る。	⑧	C	
		・各部門での指導上の情報交換を定期的に行い、指導の一貫性と共通理解を図る。	⑦⑧	C	
	社会 1 基礎・基本の定着を通して、児童生徒の思考力や学びに向かう力の育成を図る。	・ICT機器や電子黒板等での視覚的教材を活用し、資料の読み取りやそれを基に思考する力を高める指導に努める。	⑩	A	○ICT機器を活用し、視覚的に関心を引くように資料を提示することを心がけたことで、生徒が主体的に授業に取り組めたと思われる。また、タブレット端末を活用し、生徒自身が調べ学習のまとめなどを行うことで、振り返りの時間に充てることができた。●教科全体での共通理解を図る場を設定することが難しかった。他学部の授業を参観する機会をもとに設定することで、学部を超えた学習目標を考えるきっかけができたのではないかと考える。○他学部での授業の様子、教材の活用方法を積極的に参観できる時間を設けたい。
		・教材・教具の共有化を図り、有効活用を図る。	⑪	B	
		・小単元ごとの評価など、スモールステップで児童生徒の習熟度を確認しながら、教科指導の専門性を高め、授業改善に努める。	⑥⑦	B	
	理科 1 基礎・基本の定着、科学的に探究する力の育成をめざし、指導の充実を図る。	・デジタル教科書、PC、タブレット端末等の視覚的教材を活用し、児童生徒の科学的理解を深める。	⑧	A	○毎授業後のふりかえりや、小単元ごとの評価を通して、習熟度を確認しながらスモールステップで授業を進めることができた。●○理科用語以外の言葉の理解不足を補うための学習が必要であった。単元を学習する前に基本的な言葉をおさえられるよう、日常生活の中で使用していく。○NHK for schoolやデジタル教科書等の視覚的教材の活用により児童生徒の理解を深めることができた。○授業の流れを、問題をつかみ導入、問題、予想、実験、考察、まとめの流れで行うことで、自ら考え、問題の解決に向かうことができた。○薬品管理台帳等の活用により安全管理をすることができた。また、実験では児童にも安全な実験の仕方やどのような危険があるのかを説明し、安全に留意しながら実験に臨むことができた。
		・問題解決の流れに沿った観察・実験を行い、科学的に探究する力の育成に努める。	④⑩	A	
		・薬品管理台帳等を活用し、安全管理の徹底と各部の共通理解を図る。	④⑩	A	
	技術 家庭 1 生活に必要な基礎的な知識・技術の習得をとおして、自立的・実践的な態度の育成を図る。	・児童生徒の実態に応じた指導を充実させるために、ICT機器を活用する。	⑧⑩	B	○ICT機器の活用について、タブレット端末やモニターなどを実態に応じて取り入れることができていた。適宜動画や写真に授業の様子を収め、振り返りや記録として活用することができた。●○学習内容についての情報共有は、学部の担当者内での検討にとどまり、横断的な共有には至らなかった。○共有フォルダを使いながら、ワークシートの共有などを進め、より実態に応じた指導を行うとともに系統性を意識していきたい。○担当教員間で共通理解を図りながら、安全に指導を進めることができた。また、アルコール消毒や実習中の児童生徒同士の距離を十分に確保するなどの感染症対策を徹底した。
		・各部門で指導内容や児童生徒の学習活動の様子についての情報共有を行い、授業づくりや改善に生かす。	⑥	C	
		・機械・用具を適切に管理し、安全な学習環境の整備に努めるとともに、保健安全部と連携して感染症対策を徹底する。	④⑤	A	
	音楽 1 多様な音楽活動の実現を目指した学習形態と授業の工夫。	・小・中学と音楽部交流の設定や、ICTの効果的な活用による、児童・生徒が主体的に学習に臨む授業の工夫を行う。	⑥⑧⑩⑪	B	○間接的ではあったが、授業グループごとに発表や活動の様子を動画に撮ったものを通して、互いを知る場を設定した。○ネットの活用により、発着活動の幅が広がった。児童・生徒のタブレット端末スキルの向上が、主体的な学びにつながった。●音楽学習の成果を発信する手段や場がなかなかない。そのため取り限りの場を確保して発表や交流に繋がる場が欲しい。
	保健 体育 1 児童生徒の実態に応じた指導方法を工夫検討し、全員の達成を図りながら、生涯にわたる心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。	・運動の多様な楽しみ方を実感できるように、必要に応じて学習カードやICT機器などを活用しながら、主体的な学習活動の充実を図る。	⑧⑩	A	○活動内容や、ルール、様子の動きや自分の動きを見ながらタブレット端末等のICT機器を活用し、ICT機器を活用して自己の課題を見つけ、課題解決に取り組むなど、自己に合わせた運動を楽しむなど主体的な学習活動を取り入れることができた。○保健分野の心身の発達に係る内容と体育分野の体づくり運動、長距離走を関連付けて指導することで心身の発達を実感できるような指導を行った。○部中座が心配される時期においては、学部間で情報交換を行い、熱中症対策を講じたうえで授業を行えるようにした。また、合同体育では各学部の実態を共有し、体力に応じて全体で運動を行えるようにした。●○学部間で指導内容や指導状況を共有し、学部を越えて系統立てて各種目の指導ができるようにする。そのための情報共有の体制づくりが課題である。
		・「体育」と「保健」の相互の関連を図りながら、学習成果の関連が実感できるように努める。	⑥	B	
		・各部門で指導内容や児童生徒の学習活動の様子、指導事例や指導方法を共有し、授業改善を図る。	⑥	C	
	図工・美術 1 授業内容の充実や校内での作品展示をとおして、生活や社会の美術や芸術文化と豊かに関わる資質や能力を育む。	・児童生徒の作品展示を定期的に行い、制作した達成感や制作意欲の向上を図る。	⑥⑧	A	○アートストリートを中心に、児童生徒の作品展示を定期的に行うことができた。○新型コロナウイルス感染症対策のため実施できずにいいた地域との作品交流も再開され、より多くの作品が児童生徒の作品を見て頂く機会を得ることができ、保護者をはじめ、周囲への周知・啓発を図ることができた。○3年ぶりに開催された文化祭では、共同制作をはじめ、授業制作作品を展示・披露することができた。見るだけでなく、体験できる形態の作品を行事に合わせ制作できたことも良かった。○3年以上に多くの児童生徒の作品を様々なコンクールや公募展に出品することができ、それらの公募展において多数の表彰を授けられたことができた。今後も、作品を評価してもらい機会を大事にしていきたい。●○作品の出品・展示が10～12月にかけて集中しているため、計画的な作品準備、起案文書の作成、展示方法の検討が必要。
		2 作品展への積極的な呼びかけと参加を促し制作意欲を高める。	⑧	A	
		・各作品展の参加要項を確認して周知に努めると共に、アールブリュット展などの公募展に積極的に出品する。	⑧	A	
	外国語 1 的確な実態・課題の把握をとおして、主体的に学習に向かう力の育成を図る。	・教科書会社のCAN-DOリストを参考にしながら、本校CAN-DOリストの学習内容を明確にする。	⑥	B	○各自で授業研究を進めながら、英語指導のポイントや課題点を把握することができた。○ALT活用では、半年間で6回の来校があり、幼児児童生徒の国際理解や異文化交流の機会となった。○支援センターとの連携し、英語学習への動機や授業後振り返りを進めることができた。●●各自の授業の様子を見に行く機会が少なかった。○定期的に、指導者などを介さずに、お互いの授業を見に行く機会がもてればよいと思われる。
		・CAN-DOリストを活用し、系統的な指導方法の在り方について情報交換する。	⑧	B	
		2 聴覚障害教育支援センターとの連携を図る。	⑫	A	
	専門 学科 1 専門学科の授業を通して、働く意欲・態度・技能の育成を図る。	・職業人として必要な豊かな人間性を育み、社会人としてのマナー、態度の定着を図る指導方法のあり方について研究し、授業の充実を図る。	⑪	A	○職業人として必要なスキルを考え、実践する場面を設定した。指導場面、指導方法を精査する充実を図ることができた。○生徒自身が課題に対してどのように進めか考え、実践する機会を設定し実践した。●●指導法の研究を実践する機会をもつことができなかった。○知識の汎用性を目指し、授業内容がどの場面でも利用されているのか、具体的な例を挙げながら授業を展開した。また、実習等の場面において課題製作場面と座学を織り交ぜながら知識の汎用性を目指し、授業を進めた。○生徒の要望に応えることができる様、各種検定のアナウンスや講義などを行った。また、資格取得に向けて、精査を進めている。
		・自ら課題を発見し、考え実践できる力を身に付けさせるための指導法について研究し、指導力の向上を図る。	⑥	B	
		2 授業形態、指導の方法について研修し、専門性を高める。	⑧	B	
	情報 1 検定試験によるスキルアップを図る。	・習得した専門的な知識や技術の定着及び日常生活への汎用のための指導の充実を図る。	⑧	B	○年4回の検定を行った。受験者の多くが、裾野科であった。被検科担当者と連携し、検定合格に向けて、練習時間の確保、技術面の指導をすることができた。●●普通科と産業工業科の受験者が少なかった。特に産業工業科は情報の授業があるため、授業担当者や連携して受験を推進できるようにしたい。
		・各種検定や資格取得に向けた指導の充実を図る。	⑪	A	
		・日本語ワープロ検定と情報処理技能検定について、専門学科担当者と連携して、積極的な受験を推進する。	⑬	B	
	道徳 1 児童生徒の実態や発達段階に応じた指導内容や指導方法の工夫について検討し、指導内容の充実を図る。	・道徳教育全体計画に基づき、学部に応じた別案を整備する。	⑬	B	○資料を参考にしながら道徳別案の模試を作成した。現在は各学部と連携をとりながら、各教科における道徳の別案を作成している。今後は各学年学部で作成された別案を年度内に係で見直し整備していく。●○作成しただけでなく、道徳教育全体計画とともに活用していく必要がある。活用法について、研修を積んでいく。○発達段階や実態に応じて、教科書や模範的教材を適宜使い分けることができた。また、タブレット端末を活用し話し合いをすることで、自分の考えを深めることができた。
		・指導内容や指導方法を工夫し、発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の授業づくりを進める。	⑥⑩⑬	C	
		・小・中・高の年間指導計画の系統性について検討する。	⑥⑦	B	
	総合 的な 探究 1 各部門の児童生徒の学習の達成状況や課題について共通理解を図り、児童生徒自身が「課題を解決する力」や「自己の生き方を考えていく力」を身に付けることができるような授業展開の方法を検討する。	・各学部の授業実践について情報交換を行い、指導内容の共通理解を図る。	⑧	B	○本校における総合的な学習の時間の全体計画の書式案を作成した。他県で挙げている資料を参考にし、書式案を決定し、計画案を係で作成した。作成する中で、現在の授業実践が総合的な学習の時間の取り組み方として妥当かどうか検討することができた。●○次年度、総合的な学習の時間における探究課題の設定について、各学部で話し合い、本校独自の全体計画の完成を目指して話し合っていく必要がある。
		・幼児の定型発達について研修し、本校幼児の実態と比較し課題を把握する。	⑦⑨	C	
		2 幼児の発達に応じた効果的な視覚教材について検討する。	⑧⑩	B	
	保育 1 幼児の発達に応じた効果的な視覚教材について検討する。	・幼児の年齢や言語発達を踏まえて、必要な視覚教材（絵カード）について検討する。	⑦⑨	C	○「行事をどのように伝えるか」というテーマを設定し、幼児の年齢や発達段階に応じた視覚教材（写真・カラーイラスト・モックイラスト・図鑑・絵本等）の活用・提示方法を検討してきた。●●特定の行事のみを検討したため、すべての行事に対しての検討が必要であった。また、改善後の検証を行っていない。今後検証していくことが課題である。
		・生徒の実態や指導内容、指導方法等について定期的に情報交換を行って共通理解を図った。指導内容や指導方法を検討したりする。	⑧、⑨	B	
		・重複障害のある生徒に対する職業教育について研修する機会を設定する。	⑩	D	
	重複 障害 1 各部門の児童生徒の実態について共通理解を図り、望ましい社会参加のための指導内容や指導方法を検討する。	・児童生徒の主体的、協同的な活動を促す指導のため、共通理解の場をもつ。	⑥⑩	B	○重複障害に幼児児童生徒の実態について情報交換を行ったり、共通理解を図ったりすることができた。次年度は●●職業教育については、研修を行う機会について構想にとどまり、実施することができなかった。自立活動や総合的な探究の時間とも絡めながら、教員が研修できるように実施する必要がある。
		・オンラインでの全校朝会実施に伴い、どのように指導し、どのような視覚的な教材を使用するのが効果的かについて検討や情報交換、研修を行う。	⑤⑧	B	
		・児童生徒の主体的、協同的な活動を促す指導のため、共通理解の場をもつ。	⑥⑩	B	